

国鉄新潟

特集号



NO. 100 /
発行 '20.4.7
国鉄労働組合
新潟地方本部
発行責任者
清野 聡
編集責任者
教宣部

「国鉄新潟」が2020年3月26日発行で1000号を達成しました。私が地本教宣部を担当したのが2001年です。はじめは手書きでした。それからワードで打ち込み、それを紙面に張り付けて編集し、その後は「編集長」のソフトで編集し発行しています。

はじめは、地本の機関紙編集は手書きでは良いのか悩みましたが機関紙は手書きが基本だと思い2~3年は手書きでした。地本教宣部を担当して今年で20年目に入りました。今回、その頃を振り返って手書きの特集号を発行に...

羽越線は『いなほ14号』脱線・転覆事故による復旧作業が完了し、国土交通省からの指導・指示を受けて運転再開となります。

国鉄新潟

No. 559

発行
06/月/5日
国鉄労働組合
新潟地方本部
発行責任者
守橋 久仁雄
編集責任者
教宣部

緊急申し入れ1/6 事故
いなほ脱線転覆事故
列車を停止できるシステムを

現在も事故調査委員会による事故原因の究明が続いています。地方本部は一月

②列車運行に当たっては、『気象異常の取扱い(通達)』

新潟市秋葉区善道町1-1-1 0250-24-8336 2012年11月20日



駅伝競技は16チーム
個人マラソンは58名
第17回国労東日本本部マラソン大会が11月10日に皇居外周マラソンコースで行われました。今年個人マラソン5キロで58名、駅伝競技では16チームが参加、全体で160名が参加しました。
新潟からは、駅伝競技・個人マラソン(2名)にそれぞれ参加し、全体で10名が参加しました。

駅伝6位 大建闘



国鉄新潟

NO. 770
発行
12・11月20日
国鉄労働組合
新潟地方本部
発行責任者
関川 和彦
編集責任者
教宣部

市幸西1丁目1番14号 025-244-1284 2007年11月11日



早期全面解決を求め
百六十名結集
10/27

一日も早い解決を

もかかわらず百六十名を超える支援の仲間が参加、被解雇者の訴えと合わせ県内の関いの報告を受けました。不採用事件の一日も早い解決に全力



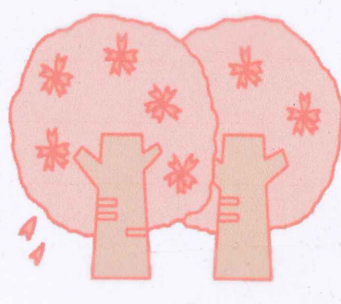
国鉄新潟

NO. 618
発行
07・11月11日
国鉄労働組合
新潟地方本部
発行責任者
守橋久仁雄
編集責任者
教宣部

編集後記



2001年から教宣部を担当して約550回くらい発行しました。NO.500号台、600号台、700号台の国鉄新潟を、張りつけました。紙面の変化がわかります。600号台から地本の印刷機が2色づりになり、紙面が華やかになりました。これからと、がんばります。



1047名 早期全面解決を

1000号達成
お祝いの言葉

祝「国鉄新潟」1,000号（3/26付け） 達成



国労新潟地本の教宣ニュースが1,000号を達成し、お祝いの言葉を贈ります。
貴方が教宣部長になり、年間発行部数30号を目標に取り組んできた事が、この発行数となりました。本当におめでとうございます。

退職者組合の取り組みや、ニュース等も記事として紹介してくれました。
組合の状況が状況だけに暗くなるような記事が多くなりますが、元気が出る、楽しくなる、明るくなる記事を今後も継続することを希望します。

そして何よりも、新鮮で、事実に基づいたタイムリーなニュースにしていかなければなりません。時には、特集記事（ちょっといっぷく）など、職場の問題点、JRの問題点、社会問題など、字数は少なくてもいいと思いますし、連続して取り上げることがいいと思います。

森友問題で元財務省職員の赤木俊夫さんが2018年3月に命を絶ち、本年3月に奥様が赤木俊夫さんの手記とメモを公表しました。彼は国鉄分割民営で公的部門に異動した人でした。「僕の契約相手は国民です」と語っていたそうです。直筆のメモには「最後は下部がしっぽをきられる。なんて世の中だ、手がふるえる、怖い 命 大切な命 終止符」と週間文春で報じています。

こうした権力者が弱者を切り捨てていくことに私達が怒りを持たなければ社会生活が成り立ちません。

一人で発行するのは大変な苦勞をしていると思いますが、「ちょっといっぷく」みたいなことは、旅行記として、皆さんから募集するのも楽しくなると思います。

今後の発行目標に向けて頑張ってください。応援します。

2020年3月30日

退職者組合新潟地連 事務局長 儀藤正義

退職者組合
新潟地連
儀藤事務局長

国鉄新潟 1,000 号お祝いの言葉

国労新潟地方本部執行委員長 清野 聡

地本
清野委員長



このたびは国労新潟地方本部機関紙「国鉄新潟」が3月26日発行号で1,000号を迎えたという事で本当におめでとうございます。

第1号の発行がいつ頃か記憶にありませんが「国鉄新潟」はこれを読めば地本の活動のほとんど全てが分かるものであり、委員長なってからは大事にとっておき、時折見返しています。余談ですがこれをインターネット上で保存しておき、いつでも検索できるようにしておけば国労新潟の歴史がわかる貴重な財産になると思っています。

1,000号達成は並大抵のことで出来るものではありません。ほぼ全ての行事に参加し、参加者の発言に耳を傾けながらメモを取らなければなりません。年間30号の目標を単純計算すると2週間に1回以上の発行を33年以上続けて来たこととなります。

副委員長を務めながら教宣部として主に活動してこられた藤井さんには感謝しかありません。これからもお体に気を付けて1号、1号上乗せして2,000号を目標に頑張ってください。